

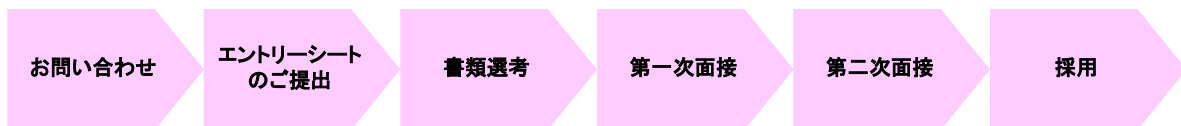
フローレンスでは『子育てと仕事そして自己実現の全てに、誰もが挑戦できる、しなやかで躍動的な社会』を実現するために全国の病児保育問題を解決したいと考えております。フローレンスビジョンに共感できる方、病児保育を地元で広めたい方に対してフローレンスでは暖簾分けシステムという方法で病児保育のノウハウを習得して頂き、一緒に子育てと仕事の両立が可能な社会を作り上げていきたいと思っております。

【内容】

OJTとして業務習得し、その後は独自で起業して頂きます。
(大阪市出身の女性が実際に暖簾分けし、大阪で病児保育事業を立ち上げました)



【採用までの流れ】



【勤務条件】

勤務地

NPO法人フローレンス 飯田橋本部オフィス
東京都千代田区飯田橋4-8-4 第二プレシーザビル502号室

研修期間

1年以上

研修日

月～金(※土曜日は、利用説明会・会議・イベント等の関係で月1-2回の頻度で出勤してこととなります)

研修時間

基本:9:00～18:00
(早番:6:45～15:45週3回、遅番13:00～22:00週2回)

待遇

交通費(上限15,000円)／活動支援金 30,000円

2010年5月24日 産経新聞掲載記事

【いきいき】NPO法人「ノーベル」代表理事・高亜希さん

■「病児保育」働く母親支援

朝起きたら、子供が発熱。でもどうしても今日は仕事を休めない。そんなとき、自宅に保育スタッフを派遣し、子供を預かる「病児保育」サービスを2月、大阪で始めた。「大阪ではうまくいかないよ」「病気のときは親が見てあげるのが一番いいのに」。そんな声があることは百も承知。でも現に困っているお母さんは大勢いる。そんな現状を変えていきたいという。



今、30歳。結婚も出産もまだ未経験。実は3年ぐらい前までは「子供はいつも元気なものだと信じていました」と告白する。子供はすぐ病気になると知ったのは、勤務先の先輩女性が漏らした「子供がいながら働くのは大変やわ」という一言だった。なんで？と疑問に思うと、「子供は急に熱を出す。会社は休めないけれど誰も面倒を見てくれないから休むしかない。これが何度かあると会社も『またか』となる。ホンマに大変」と先輩は説いた。

「驚きました。無知だったんです」。保育所の待機児童問題は知っていたが、保育所に入れれば、あとはうまくいく、と思っていた。



大学卒業後、旅行代理店に入社。関西で女性初の営業担当となり、転職した会社でも営業を担当。男性と同じように仕事をするのは、ごく自然だった。

一方で、周囲の友人たちは結婚や出産を機に、次々と職場を去っていた。そのたびに「女性は働き続けられないのか」と疑問を感じていた。自分には頼れる実家もあれば親戚(しんせき)もいて、将来ピンチが訪れてもなんとかなるという気はした。しかし、世間は違う。

自ら「おせっかい」と評する気質が頭をもたげ、病児保育の現状を調べ始めた。定期的な収入が見込めない病児保育は経営側にあまりメリットがない。しかし、東京では既に病児保育を行うNPO法人「フローレンス」が活動を始めており、注目を集めていた。

早速連絡をとり、1年間、ノウハウを学ぶ。大阪に戻ると、フローレンスの支援を受けながら、NPO法人「ノーベル」を設立した。会員が月会費を払う「共済型」として一定収入を確保。一方、利用会員には、当日朝8時まで連絡すれば「100%対応」を打ち出した。大阪市内の2区でサービスを開始。次第に「ぜひうちの地域でも」との声が高まり、7月からはさらに4区を追加する。



母親からは切羽詰った声を聞き、1人で背負い込んで我慢する様子も目の当たりにする。企業側の理解も進まない。事業を通して現状を伝え、「働きやすい環境を整え、子育ても社会のみんなですべてやっていると発信したいです」。

そしていつの日か、病児保育のサービスが必要ない社会になればいいな、と思っている。(岸本佳子)



【プロフィール】高亜希

こう・あき 昭和54年12月10日、大阪市まれ。30歳。平成15年、関西学院大学商学部卒業後、JTB入社。リクルートHRマーケティングを経て、20年、NPO法人「フローレンス」入社。21年、NPO法人「ノーベル」を設立。